

楽読
(ラクヨミ) Vol. 1,636Raku
Yomi

楽読(ラクヨミ)

コロナ禍で注目が集まるゲノム技術② ～実用化へ向けた動きが進むゲノム関連技術～

nikko am
fund academy

2020年9月7日の楽読Vol.1630「コロナ禍で注目が集まるゲノム技術～ゲノム解析が感染症対策の基幹技術に！？～」で、ゲノム解析技術のコロナ禍における活用についてご紹介しましたが、注目を集めているのは解析技術だけではなく、「CRISPR/Cas9(クリスパー/キャスナイン)」の発見などにより、研究効率が飛躍的に向上したゲノム編集をはじめとするゲノム関連技術を、新型コロナウイルス対策に活用する動きがみられます。

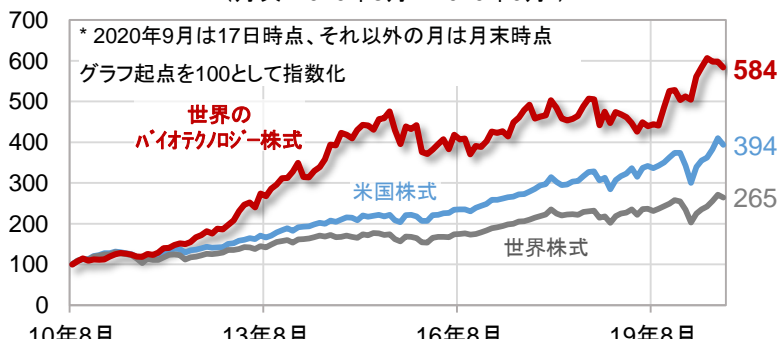
足元では、ゲノム関連技術による新型コロナウイルスの治療薬・ワクチンの開発が進んでいます。ゲノム編集技術を使った難病治療の研究を進める米バイオ医薬品大手リジェネロンは、新型コロナウイルス感染者の治療や感染予防の効果が期待される医薬品の開発を進めています。また、英製薬大手のアストラゼネカは、ゲノム編集を施したウイルスを用いる新型コロナウイルス向けワクチンの開発を、米バイオ医薬品ベンチャーのモデルナは、mRNA(メッセンジャーRNA)と呼ばれる遺伝物質の特性を活用した同ワクチンの開発で先行しています。

このほか、米国では「CRISPR」関連技術を使った新しいPCR検査の開発も進んでいます。この検査は、従来のPCR検査と同程度の精度を持ちつつ、検査時間の大幅な短縮や、検査の簡素化・コスト削減が可能になるとされ、開発に成功すれば、家庭でも簡単に検査ができ、新興国などの検査拡大にも寄与すると期待されます。

こうしたゲノム関連技術は、現時点では研究・開発段階のものが多く、実用化へのハードルが高いものもあります。しかし、今回のコロナ禍で、移動制限や非接触ニーズの高まりなどを背景に、ビデオ会議システムやキャッシュレス決済などのイノベーションの普及がみられたように、社会の激動期には、社会的なニーズの変化から、イノベーションに対する人々の心理的抵抗の低下などがみられる傾向にあります。ゲノム関連技術についても、コロナ禍に伴う需要の高まりを背景に、イノベーションの成果を享受できる時代は、そう先の話ではないかもしれません。「21世紀は生命科学の時代」とも言われる中、ゲノム関連技術の重要性はますます高まっており、こうした技術を保有する企業には、今後も高い注目が集まると考えられます。

世界のバイオテクノロジー関連株式は10年で大きく上昇

＜バイオテクノロジー関連株式の株価推移＞
(月次:2010年8月～2020年9月*)



10年8月 13年8月 16年8月 19年8月
世界株式:MSCI ACワールド・インデックス、米国株式:S&P500種株価指数、
世界のバイオテクノロジー株式:MSCI ACワールド・インデックス(バイオテクノロジー)、
いずれも米ドルベース、トータルリターン

※信頼できると判断したデータをもとに、日興アセットマネジメントが作成

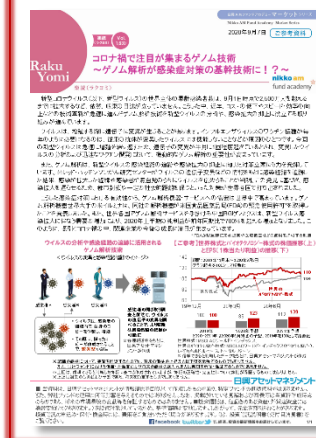
※記載の銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。

また、当社ファンドにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

※上記は、信頼できると判断した情報に基づき作成されていますが、情報の正確性・完全性について弊社が保証するものではありません。

※上記は過去のものおよび予想であり、将来を約束するものではありません。

【ご参考】楽読「コロナ禍で注目が集まるゲノム技術～ゲノム解析が感染症対策の基幹技術に！？～」
(2020年9月7日)は[こちら](#)



↓左の楽読のページへ
遷移します。



楽読

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。